

## 研究会・シンポジウム報告

2022年1月29日（土） シンポジウム報告

テーマ： 専修大学社会科学研究所シンポジウム—SDGsをめぐる現実と思想—

報告者： 斎藤 至 （科学技術振興機構アジア・太平洋総合研究センター フェロー）

斎藤 幸平 （大阪市立大学大学院経済学研究科准教授）

影浦 亮平 （千葉商科大学基盤教育機構専任講師）

コメント：大西 楠テア（本学法学部准教授）

森原 康仁（本学経済学部教授、本所所員）

時間： 13:00-17:00

場所： オンライン開催

参加者数：107名

報告内容概略：

コーディネーターの恒木と大矢根淳所長の挨拶の後、3つの報告が行われた。斎藤至報告は政治学的観点からSDGsの機能を論じ、斎藤幸平報告はマルクス主義的観点からSDGsの矛盾について批判し、影浦亮平報告は哲学的観点からSDGsの思想的特徴を論じた。その後、大西楠テアは法学的観点から、森原康仁は国際経済論的観点から諸報告にコメントし、3人の報告者がそれぞれリプライした。パネル・ディスカッションでは公害問題および環境問題と経済学との関係、SDGs実践の現場とその改善の方向性、国際協力のあり方や社会運動の役割、SDGsが社会改革に果たす機能とそれが成立した背景をなす帝国主義批判の役割、貧困問題の解決とSDGsの関係などをめぐって活発に議論が交わされた。SDGsに関してその推進・批判をめぐって自身の立ち位置を鮮明にしつつ議論した本シンポジウムは、フロアからの数多くの質問も交えつつ、盛況のうちに終わった。（肩書きは当時）

記：専修大学経済学部・恒木健太郎